

“Active Learning” アクティブラーニングで 授業がキャリア教育になる

生徒の自立や社会で生きる力を育むために高校ではどのような教育が必要か。

この命題に長年取り組んできた二人の鈴木先生に、
いま注目される“授業におけるキャリア教育”について、経験を踏まえて語っていただきました。

取材・文／藤崎雅子 撮影／成瀬友彦

三重県立飯野高校
(定時制)
進路指導部長
鈴木建生先生



1953年生まれ。三重県立木本高校、四日市四郷高校、桑名高校を経て2002年に朝明高校赴任。教育コーチングや協同学習を自らの実践に生かすとともに、校外の教員ネットワークを構築してキャリア教育を推進し、09年度文部科学大臣優秀教員表彰を受賞。11年度に外国籍の生徒や不登校生徒を多く受け入れる飯野高校定時制に赴任。全国の小中高、大学でのコーチングワークショップ実施など、学校の枠にとらわれず活動している。

三重県立特別支援学校
西日野にじ学園
学校長
鈴木達哉先生



1960年生まれ。初任の三重県立桑名工業高校ののち、新設校である川越高校に開校とともに赴任。17年の在任期間中、進学校としての体制作りとキャリア教育推進に尽力する。その後、津高校、神戸高校(教頭)の進学校で進路担当を歴任。県立高校全体のレベルアップのための高大連携やインターシップ推進などの事業にも協力。2012年度から特別支援学校西日野にじ学園学校長。著書に『地方発! 進学校のキャリア教育 その必要性と実践ノウハウ』(学事出版)。

すべての教員ができる
日常的なキャリア教育へ

編集部(以下、編)…鈴木建生先生が進路多様校、鈴木達哉先生が進学校という違いはありますが、お二人とも長年進路指導に携わり、キャリア教育推進にも力を入られてこられました。どのようないきさつでキャリア教育に取り組むようになったのでしょうか。

鈴木建生先生(以下、建生先生)…中退率の高さが課題だった朝明高校時代、それまでのやり方がまったく通用せず、カウセリングやコーチングなどを次々学んで試行錯誤していました。しだいに中退者は減少、また進路指導部長として就職内定率100%も達成したのですが、就職者の3分の1が1年以内に退職という事態に衝撃を受けて…。長期的な視野に立つたキャリア教育の必要性を痛感したんです。以後、内定後指導にも力を入れるようになり、子どもたちをどう社会につなげていくかを考えて取り組んでいます。

鈴木達哉先生(以下、達哉先生)…私がキャリア教育に関心を持ったのは、開校と同時に赴任した川越高校でのことです。1期生から10期生までで国公立大学合格者数が約6倍に増えたのですが、進路部長としてはテクニック重視の受験指導に行き詰まりを感じるようになりました。そんな時にキャリア教育について知り、その理念に共鳴。それまで行ってきた小論文指導をベースに、総合学習で社会との

接続を意識した進路学習を行うようになっていきました。現在は特別支援学校にいますが、一人ひとりを大切に生きてる力を育むキャリア教育の視点は変わらず大切にしています。

編…現在の高校キャリア教育については、どのような考えをお持ちですか。

達哉先生…キャリア教育の必要性は高校現場にだいぶ浸透してきた印象です。ただ、その次のステップとして、授業を中心とした日常のなかで、どの教員にもできるキャリア教育というのを考えていかなければならないと思っています。

建生先生…単発のイベントでは限界がありますからね。例えば人間関係形成能力を身につけようとした時、月1回のトレーニングだけでは難しい。日常的に経験を積み重ねていかないと身につかないでしょう。

達哉先生…また、イベント型プログラムは教員の負担が非常に大きく、いかにすばらしいプログラムでも続きません。教員の本業である授業と一体化させるほうが、取り組みが定着しやすいのではないのでしょうか。

すでに多くの教員が
アクティブラーニング実践中?

編…お二人は授業でチームによる学び合いなどの実践をされていますね。そのような能動的な学習スタイルを総称するアクティブラーニングが注目されていますが、それにはどのような効果があるのでしょうか。
建生先生…まず1つは、生きていくため

■さまざまなアクティブラーニング型の授業

- 学生参加型授業
e.g. コメント・質問を書かせる／フィードバック、理解度を確認（クリッカー、授業最後／最初に小テスト／ミニレポート）
- 各種の共同学習を取り入れた授業
e.g. 協調学習／協同学習
- 各種の学習形態を取り入れた授業
e.g. 課題解決学習／課題探求学習／問題解決学習／問題発見学習
- PBLを取り入れた授業
e.g. Problem-Based Learning／Project-Based Learning

溝上慎一准教授資料より

の幅広い力が育まれるということ。わからないことを問いかける勇気ももてたり、人の話を聞く姿勢など「ミニミニケースション」の基本が身につくと思います。

達哉先生…また、主体性を持って学ぶようになり、必然的に学力も上がるでしょう。以前、「どんなにすばらしい授業でも、一方的な講義ですべての生徒に理解させることはできない」と聞きましたが、アクティブラーニングでは全員が自分なりに理解することは可能だと思います。

編…効果があっても、新しいことには拒否反応を示す先生もいませんか。

達哉先生…そうですね。私も協同学習を校内にどう広めたいか、悩んでいたことがあります。そんな時、あるキャリア教育フォーラムで京都大学准教授の溝上慎一先生※から「座学の一方的な授業でなければすべてアクティブラーニングだ」と聞きました（図参照）。すでに多くの先生が何らかのアクティブラーニングを取り入

れていることになり、先生方に話しやすいになりました。

建生先生…チームになって課題に取り組み授業をしている先生に、「それアクティブラーニングそのもので」と言う、「えっ、そうなん？」と驚かれたことがあります。名称を意識せず実践している先生は少なくないでしょうね。

生徒がいきいきするよう
小中高でつながりのある授業を

編…多くの先生はすでに自分なりに工夫して生徒に考えさせようとしていて、まずは「それでいいですよ」ということですね。その次の段階としては何が必要でしょうか。

達哉先生…小中高の学びの連続性も意識していく必要があると思います。

建生先生…同意です。中学ではかなりアクティブラーニングを取り入れているので、高校にきて「聴いているだけでつまらない」という生徒もいます。お互いにフォローし合う集団づくりができるなど、それまでに築いてきたリソースを高校でも生かしていきたいですね。

達哉先生…また、教師一人ひとりのレベルアップについては、とにかくまずやってみることで。そこで生徒の変化を実感できれば、教師は自然に変わっていくものです。以前の勤務校で大学教授の出張講義を始めた時、最初いぶかしげだった先生が、実際に生徒の目の輝きを見るや熱心なキャリア教育推進者になりました。

建生先生…本校には今、非常に意識が高い先生二人から、じわじわとアクティブラーニングによる学び合いが広がる動きがありますね。彼らは「生懸命学び合う生徒の顔を見るのが快感」だそうです。彼らが授業を公開するなかで啓発される先生も多く、草の根的に勉強会が起っています。

外部イベントへの参加が
悩み解消への第一歩

編…より良い方法を模索する先生方に、どんなアドバイスをされますか。

達哉先生…最初のとっかかりの部分は、ある程度思い切ってポンと行動したほうがいいでしょうね。今、教員が外で学ぶ機会はずっとたくさんあります。特に夏休みは数多くの大学や団体がさまざまな研究会、フォーラムなどを開催します。ぜひそのようなチャンスを生かしてほしい。

建生先生…私はこの4年間、夏休みは東京で開催されるキャリア教育推進フォーラム（コラム参照）に参加しています。改革に意欲的な先生、課題に苦労されている先生方とさまざまな話ができて、「一緒に頑張っていきましょう」と確認するだけでも力がわいてきますね。常連の先生も大勢いらして、「1年間でこんな改善をしました」と報告し合うのもうれしいものです。

達哉先生…よく言われるのが、「わざわざ外に出なくてもインターネットで情報を得られるじゃないか、人とつながれるじゃないか」。しかし、直接話すことで触発され、

本当のつながりができるものですよ。

建生先生…先ほど話に出した、本校でアクティブラーニングを進めている先生は、自ら学んでいこうという意欲、そのために「つながろう」とする気力がすごいんです。先にチーム学習を実践していたばくとも、たまに校内で会うと質問攻めで、必死につながろうとする。そのつながろうとする力こそが、子どもたちをつなげていくことができるのだと思います。

編…アクティブラーニングの重要性、その実践に向けて大切なことがよくわかりました。ありがとうございました。

二人の鈴木先生のお話をもっと聞きたい方へ

INFORMATION

アクティブラーニングをテーマとした
「第6回キャリア教育推進フォーラム」が開催されます

この数回は授業におけるキャリア教育をテーマに開催されているが、今年度はアクティブラーニングの重要性にとどまらず、その具体的な活用方法にも踏み込む。鈴木建生先生、鈴木達哉先生が登場するコーナーも予定。参加者同士の意見交換や議論の場があるのが特徴。主催は産業能率大学、参加費無料。詳細はhttp://www.sanno.ac.jp/exam/news/forum-career2012_01.html



■東京会場

テーマ：アクティブラーニングで12年間をつなぐ～学びの探求と活用をはかるために～
内容：高校のみならず小中学校の事例報告も交え、校種間のミスマッチの現状と接続のための方策について考察。鈴木達哉先生の発表「進学校でのキャリア教育」などからアクティブラーニングの効果的な活用についての検討も予定されている。
日時：2012年8月5日(日) 10:00～17:00
会場：産業能率大学 自由が丘キャンパス

■名古屋会場

テーマ：アクティブラーニングにより教科学習とキャリア教育の連動をはかる～学びの探求と活用をはかるために～
内容：進学校でのキャリア教育とアクティブラーニング実践報告や、鈴木建生先生、鈴木達哉先生、埼玉県立越谷高校小林昭文先生（p.38記事参照）の鼎談などを予定。フォーラムそのものなかにアクティブラーニングやピアラーニングを取り入れて実施。
日時：2012年8月4日(土) 13:00～17:00
会場：河合塾 千種キャンパス

※溝上慎一先生：京都大学高等教育研究開発推進センター准教授。青年心理学、発達社会心理学、高等教育が専門。